

はじめに

昨年のリーマンショック以降、日本経済は大きな打撃を受けている。これまでの経営環境は大きく変化し、今までの成功体験では通用しなくなっている。新たなものづくりの価値観を確立しなければ21世紀に生き残れない。すなわち、このような変化の激しい時代では、新たな道を模索し続け、ものづくり企業を成長軌道に乗せる新しいタイプの技術者が必要となる。

ものづくり技術の高度化を経済発展の最有力手段として成長し続けてきた日本は、いまやBRICsやVISTAといった新興国の追い上げを受け、非常に苦しい状況にある。急速なグローバル化により、新しい価値観を持ったものづくり技術者の育成が急務となっている。

このような社会・経済的背景を常に意識し、理工学部は「教育の質No.1」をめざし、時代を先取りする教育改革を進めてきた。その一環として、工学系の6学科すべてが国際的にも評価されるJABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けた。その目的は、技術教育の質を高め社会に貢献し、社会をリードする人材を育成することにある。すなわち、近畿大学学園の建学の精神「実学教育と人格の陶冶」に基づいて、理工学部では、「教養豊かで創造性に富む人材の育成」を教育理念として専門技術者として社会で活躍できる高い教養と知識を身に付けるための教育プログラムを推進している。

日本のものづくり産業をより発展させるためには、技術革新への対応やボーダレス化が進むグローバル社会に応えられる質の高い技術者を育てる教育プログラムの開発が重要である。

文部科学省支援事業「東大阪モノづくり技術者育成プロジェクト」は、産学連携の強化により次世代モノづくり技術者の育成に大きく貢献する事業である。ここでの「モノづくり」は「人づくり」である。すなわち、モノを提供する相手の立場でいえば、モノを通して「物」と「価値」を求めている。「物づくり」は、現実の開発、設計、製造において、製品をいかに高品質で、安く、速くつくるかというプロセス・イノベーションであり、それを支える技術革新である。「価値づくり」は、物を通してお客様に提供する価値、コンセプトを創出することである。

本プロジェクトでは、お客様第一の視点から、真の「モノづくり」を身に付けた技術者育成のさまざまな取り組みを展開してきている。これらの活動は、近い将来において日本の産業・経済発展に貢献できるモノづくり技術者の育成に貢献することを確信している。

文部科学省「ものづくり技術者育成支援事業」
東大阪モノづくり技術者育成プロジェクト 代表者
近畿大学理工学部長 岩崎 日出男